

自治会まちづくりミーティング（要旨）

1. 自治会等の名称 鵜沼第 1 自治会連合会・各務自治会連合会・八木山自治会連合会
2. 日 時 令和元年 6 月 20 日（木）19 時 00 分～20 時 50 分
3. 場 所 鵜沼福祉センター
4. 出 席 者 自治会長 31 名、 市長・都市建設部次長兼道路課長

<内容>

○連合会長あいさつ

○市長あいさつ

○テーマ概要

テーマ①：坊の塚古墳の保存

テーマ②：各務区内の市街化調整区域の規制緩和
各務山の開発計画、周辺道路の整備計画

テーマ③：異世代ホームシェア

○提言による懇談

テーマ①：坊の塚古墳の保存

〈羽場町 4 丁目自治会長〉

羽場町には「坊の塚古墳」という、前方後円墳があります。今、市で発掘調査を行って見えますのでその結果と共に、今後この古墳をどういう形で保存いただけるのかお伺いしたいと思います。

設置してある案内板によりますと、「坊の塚古墳」は各務原市最大の前方後円墳であり、4 世紀末～5 世紀（古墳時代中期）に築造されたと考えられており、各務原市で最大、岐阜県下でも第 2 位の規模を持つ前方後円墳で、墳丘の全長は約 120m という事です。

この古墳は平成 26 年に羽場町の共有財産であったものを市に寄付いたしました。それを契機に現在発掘調査が行われています。

この写真は平成 27 年度に始まり、現在最終年度と聞いている発掘調査のものです。

私は、この「坊の塚」の近くで生まれ育ちました。私が子どもの頃、母親が「坊の塚はお墓だから中で遊ぶとバチが当たる。」と言っていたのを覚えています。また「馬に乗ったまま埋まっている人がいるから遊んではいかん。」とも言っていましたが、古墳に入っただけでいけないという事だったのかもしれない。今思えば、古墳時代は生け贄的な風習はなかったので埴輪の事を言っていたのかも知れません。

今は、塚の樹木を伐採して随分綺麗になっていますが、昔は塚の木を切っても祟りがあると言われ、木を切らなかつたものです。塚の近くで火事があると古墳の祟りと恐れ、古墳には火を防ぐ神様である秋葉神社が祭られていました。父親達が年に 1 回、静岡の秋葉神社の本山まで一泊かけて国鉄を乗り継いで、お札をもらいに行っていたのを覚えています。昔は茅葺の家ばかりだったので火事が多く神様を頼りにしたのだと思います。

夏には提灯祭りと言って、夜子どもが提灯を持ってお参りにいく神事もありました。現在は塚の土地を市へ寄付したことに伴い神事もなくなり、塚にあった山神様の石碑石像等は羽場町の津島神社に移動し祭られています。

このような先人の言い伝えも、時代の流れとともに忘れられるのは残念な気がします。

長年、羽場町の共有財産として草刈り等を行い、先人の言い伝えを守って引き継いできたからこそ前方後円墳の原型をとどめて残すことができたのではないのでしょうか。

現在、発掘調査を行っていますが今年度が最終と聞いています。学芸員さんの話によると、調査後は史跡保護の観点から埋戻しが行われ、現在確認できる墓石・石槨等は見えなくなるそうです。

次の2点について、市の考え、また、構想をお聞かせください。

- ① 子どもたちの野外学習の場としていい教材になると思いますが、今後、どのような形で活用していくのか、考えをお聞かせください。

また、出土品等も含め発掘調査結果を残す方法をお聞かせください。

- ② 塚の南側・西側は樹木が伐採されていますが、北側・北東側は以前のまになっています。市は今後、古墳全体を史跡としてどのような方法で維持管理していくのか、構想をお聞かせください。

史跡公園化するには民家が近くにあり難しい面もあると思いますが、構想が具体化できた時点で地元の説明会等開催していただけたらと思います。

最後ですが、先ほど言いましたが「坊の塚古墳」は羽場区の共有財産として先祖より草刈りをして管理してきた古墳です。寄付を受けた市として有効に活用していただき、次世代に残していただきたいと思っています。

〈市長〉

坊の塚古墳は、羽場区の共有財産という事で長年に渡り多くの地主の方々が適正な管理をなされてきたというところでしたが、今後は市の方できちんと管理してもらいたいという地元の方々の強い思いをいただきましたので、平成 26 年に寄贈を受けたものであります。古墳の説明は先ほど会長さんからありましたが、もう少し古墳についてご紹介したいと思っています。

まず「坊の塚古墳」が造られた時代背景について説明させていただきます。

奈良盆地に大和王権が誕生し地方を連合下に従えていったのが古墳時代の始まりです。各務原では鵜沼地域を治めていた県主クラスの豪族が大和王権の傘下に入り、その証として前方後円墳の造営が認められました。

その古墳が「坊の塚古墳」です。県主というと今でいう市長クラスの役職といった記録のあるところでは。

弥生時代は紀元前 4C～3C 前半、古墳時代は 3C 後半～7C 末、飛鳥時代は 7C 後半～8C 前半といったところですので、坊の塚古墳は 4C 終わり頃、まさに古墳時代に作られたものという事になります。この写真は坊の塚古墳の航空写真になります。

鵜沼羽場町の坊の塚古墳は、市内最大、県下でも 2 番目の規模を誇る前方後円墳で、昭和 32 年に県の史跡に指定された地域のシンボルとなっている古墳です。本当はもっと大きかったのではないかとされています。

古墳の規模は富と権力の大きさに比例すると考えられており、相当な権力者であったと思われ

ます。ただ誰であったかは、まだ判明されていない状況です。

参考ですが、県内で一番大きい古墳は大垣市の昼飯（ひるい）大塚古墳です。

市では平成 27 年度から、5 カ年にわたる発掘調査を行っており、今年度調査の最終年度を迎えます。これまで 4 年間にわたる発掘調査により、坊の塚古墳についてさまざまな事が明らかになってまいりました。

発掘調査で分かったことを説明します。

まず、古墳の構造についてです。坊の塚古墳は前方後円墳という丸と方形を組み合わせた形状をしています。墳丘の一部を掘削して調べたところ、方形の前方部がピラミッド状に 3 段に造られていることが確認できました。

また、円形の後円部では亡くなった被葬者を葬った埋葬施設が確認され、その構造・規模や過去に受けた盗掘の痕跡などを確認しました。さらに、古墳の斜面では、墳丘の保護のために積まれた葺石が良好な状態で残っていることが分かりました。

続いて、発掘調査で見つかった出土品について主なものをご紹介します。

古墳の頂上からは、埴輪が並べられた状態で出土しました。これは筒型の円筒埴輪と呼ばれるもので、古墳の頂上をぐるりと巡る形で置かれていたことが分かりました。こちらは埋葬施設から出土した土製品です。粘土を焼いて作ったもので、魚やモチなど食物をかたどっています。何らかの儀式に使われたものと思われます。

そして、この埋葬施設の土をふるいにかけてところ、1,000 点を超える数の勾玉や白玉・管玉などの玉類が多数確認されました。これらの出土品は、整理作業が終了次第、中央図書館 3 階の歴史ギャラリーに展示しており、坊の塚古墳の調査の成果として一部をご紹介します。

さて、ここまで、発掘調査の成果をご説明いたしましたが、先ほどのご提案にあったとおり、坊の塚古墳は、子ども達のふるさと教育の場としても活用してまいりたいと考えています。

こちらは、昨年度開催した発掘体験の様子です。毎年、夏休み期間を利用して発掘調査の体験や見学をする機会を設け、子ども達が地域の歴史に触れる生きた教材として活用を行っています。

また、調査の成果を広く知っていただくため、発掘調査終了時に担当者が調査の成果を発表する現地説明会を開催しています。昨年度は、雨天にも関わらず市内外から 100 人以上の参加者が来場され最新の成果をお伝えしました。

以上、これまでの発掘調査について主だった成果や活用をご説明しました。

今年度の調査でも子ども達の発掘体験を実施する予定です。

今年度は、発掘調査の最終年度となり、「前方部の南西角」、「後円部の南側上段」、「墳頂部の接続箇所」、「周壕の範囲」について発掘、レーダー地中探査を行う予定です。

10 月 13 日には、発掘調査現地説明会を行うとともに、小学生を対象とした「坊の塚オリエンテーリング」も同時開催する予定です。その際には出土品の一部も展示する予定です。

10 月から 12 月にかけて坊の塚古墳に関係したテーマの歴史セミナーを 5 回計画しています。

坊の塚古墳の出土品と、他の主要な古墳の出土品を展示し、市内全体の古墳時代を学ぶ機会として 11 月から中央図書館 3 階の歴史ギャラリーで企画展を行います。

12 月 21 日には、坊の塚古墳に関する古墳シンポジウムを開催する予定です。このシンポジウムでは 5 カ年の発掘調査を振り返ると同時に、今後の「坊の塚古墳」の活用について考えることをメインテーマのひとつとしています。

坊の塚古墳は、各務原市はもちろんこの岐阜地域を代表する古墳であり、地域の皆様が守り、今日まで伝えてくださった大切な歴史遺産です。発掘調査の成果について令和3年度をめぐりに調査報告書にまとめると同時に、市民の皆さんがふるさとの歴史に愛着と誇りを持っていただけるよう、今後について検討していきたいと考えています。

また、今回の一連の発掘調査でわかった成果を加えながら、原寸大の生きた教材として学校の授業で利用していく他、「ふるさと教育」として活用していく考えです。

近くにある炉畑遺跡も地域のお子さんたちが歴史を学ぶ場所として活用しています、坊の塚古墳も同じように子ども達が歴史を学ぶ場所として今後とも活用していく考えです。

古墳というと全国いたるところにあるように思いますが、本当に多くの歴史家の方々を訪れている、正にロマンを感じるものではないかと思えます。坊の塚古墳は、とてもロマンを感じる事業であります。今後とも地元の皆様と対話しながら進めてまいりたいと思えますので、引き続きよろしくお願いします。

テーマ②：各務区内の市街化調整区域の規制緩和

各務山の開発計画、周辺道路の整備計画

〈東組北自治会長〉

私どもは各務東町というところで、各務原市の北東の端の地区になります。基本的に農業中心の地区に色分けされていまして、東組は多くが市街化調整区域であるため、それがもとで色々な問題が起きてきています。一番端的なものは、少子化で後継ぎがない過疎化です。これがかなり進んできていまして、周りを見回すと年寄りばかりという状況です。

農地転用が出来ない等により、建物が自由に建てられず地区発展の大きな妨げとなっています。しかも調整区域内は田とか畑ばかりですが、そこも担っていく若者がいないために農地も耕作もされず、荒れ地になっていく所もどんどん増えています。そういう事が切実な問題として我々の世代に投げかけられています。

私の提言としては、この辺の問題に対する市の考え方をお聞きしたいということです。

「各務区内の市街化調整区域のエリアの見直しの考え方について市の計画をお話しいただきたい。」というのが第1点。

また、「前山の開発が行われていることは皆さんご承知のことと思いますが、それに関連して岩坂グリーンロード。各務原カントリーからおがせ街道への道ですが、これがいずれ国道21号線へ抜けると聞いているがどうなるのか。あるいは江南・関線から東側が今全く出来ていない。岐阜鶴沼線について、計画通り進んでいるのか、遅れているのか。」そういった所をお伺いしたいというのが第2点です。

少子化で後継ぎが無い。土地を持っていても近くに家が建てづらいといった事で、子ども達がどんどん他の地区へ出て行ってしまっている家もたくさんある。こういったことが少子化につながっていると考えますが、何とか少子化を止めたいというのが地元の願いです。

半世紀も前に立てられた計画が市として見られた場合、国の考えとかそれに沿った形で市が発展して行っているかどうか、そこがポイントだと思います。

それと今後を見たとき本当にこのままでいいのか、半世紀前に作られた法律なのでもう一度考えてもらいたい。国の方針を見ているとこういったエリア的な話は出てこないと思えます。地元

である市長さんをはじめ、市の方でこういった話を展開していただかないと、我々の力では何ともなりません。今一度その辺のところを考察願って次の世代に繋げるような方策を考えていただけないかと言うのが私の提言です。

この話は色々なところで聞いていると思いますし、大変難しい問題であることも分かっていますが、何とか前に進むよう地元の者としてお願いします。

〈市長〉

大きくは3点についての提言かと思います。

第1点目の市街化調整区域の問題については、私から。

第2点目の「前山の開発」と、第3点目のそれに関する「道路の整備」については道路課長から話をさせていただきます。

1. 各務区の市街化調整区域のエリア見直しについて

市内全般を捉えましても小学校区を捉えましても少子化で年々児童生徒の数は減ってきておりますが、その中でも増えているところ、減っているところの地区が割れてしまっているような状況があります。会長さんの地元の各務小学校は、市街化調整区域であるから大きな課題が有ることは私どもも認識しています。

各務地区は古くからの集落地と農地によって構成される、ほぼ全域が「市街化調整区域」の地区です。「市街化区域」とは、すでに市街地を形成している、あるいは優先的に市街化を進めていこうとする区域です。一方、「市街化調整区域」は、市街化を抑制する地区であり、一定の要件に該当しない限り、住宅などを建てることができません。こうした区域の区分を設けることで、乱開発による無秩序な市街化の拡大を防ぎ、調和のとれたまちづくりを行っています。

少子高齢化が進む現在、人口や都市機能を駅周辺などに集約した「コンパクトシティ」が、都市計画の基本方針となっています。こうした都市を「縮充」する方針については「集約型都市構造の形成」として各務原市都市計画マスタープランでも、位置付けているところです。

しかし、一方で住宅の建築が規制されている市街化調整区域では、人口減少が顕著であり、既存コミュニティの維持が大きな課題となっています。こうしたことを踏まえ、都市計画マスタープランでは、市街化調整区域の土地利用に関する方針を次のように定めています。

「集落地に居住する市民の生活に最低限必要となる商店や診療所、介護施設については既存コミュニティを維持するために周辺の環境に配慮しながら適切な立地を図る。また都市基盤がある程度整っている地区や学校、鉄道駅の周辺について、地域の活性化に向けた方策を検討する。」

本市ではこうした方針に基づき、人口減少・高齢化が顕著で、小学校の維持や自治会の活動に影響が出ると考えられる市街化調整区域内の既存集落において、土地利用の制限を緩和する施策を検討しているところです。しかし、施策の適用にあたっては、災害の恐れがないことや優良な農地を含まないこと、また、新たな公共投資、つまり道路や下水道などの整備が必要ないといった条件を満たす、適正な規模の区域を定める必要があります。

各務地区についても、既存コミュニティの維持を図る必要があると認識しておりますので、先ほど示した通り、「農用地」の指定が無く、道路や下水道などインフラ整備が整った地域については土地利用の制限の緩和を検討すべきと考えます。

なお、各務地区で未整備の下水道については、令和7年までに幹線管渠の整備を進め、その後、芋ヶ瀬池北側地域の面整備を進める予定です。

〈道路課長〉

2. 各務山の計画について

画面には各務山を中心とした周辺の道路網についてお示しさせていただいています。

各務山は、本市の中心部に位置し、約 100ha という広大な面積を有する土地で、以前からその利用計画について市の内部で検討してきました。

岐阜県内では、近年企業立地が好調に推移しており、自動車や航空機関連の輸送機器製造業を中心として、工業用地の取り引きが盛んに行われています。本市においても、ものづくりの街として工業用地の需要が多く、また、市外の企業からも年に数十件の問い合わせをいただいているなど、新たな工業用地の確保が喫緊の課題となっていました。

また、各務山の土地利用については、市のまちづくりの方針を定めている「都市計画マスタープラン」において、各務山地区を「土地利用検討地区」と位置付け、「残された緑地の保全や緑化を推進するとともに、工業系をはじめとした有効な土地利用を積極的に検討すること」としています。更に、平成 28 年度に岐阜県が実施した「工場用地開発可能性調査」においては、各務山全体を開発した場合の概算事業費や想定分譲価格を算定した結果、各務山が工業団地として事業化の可能性があることが検証されています。

このような背景から、平成 29 年度には、本市における基盤整備の位置付けと将来的な土地利用方針を定めるため、各務山全体約 100ha の基本構想を策定し、工業団地として整備していく地区としました。

これを受け、すでに平場となり造成が可能な西側約 17ha の区域（第 1 工区）においては、各務原市土地開発公社による開発事業として工業団地を整備することになりました。市としましては、許認可権者として各種法令に基づく開発等の技術基準が遵守されるよう、各務原市土地開発公社に対し適正に指導してまいります。

各務原市土地開発公社の進捗状況ですが、第 1 工区のすべての民有地の取得が完了し、開発許可に向けた技術基準を満たすよう道路や排水施設などの詳細設計を実施しています。今後につきましては、令和 2 年度中に開発行為に着手し、令和 5 年 4 月に分譲を開始する予定と聞いています。

なお、西側と同様に岩石採取事業が行われている各務山東側の区域については、県で開発していただけるよう要望を出させていただいています。

〈道路課長〉

3. 各務山周辺の道路整備について

本市の道路網の骨格を形成する広域幹線道路は、各務山の周囲を囲むように、南側に国道 21 号、北側におがせ街道（長森・各務原線）、東側に岩坂グリーンロード、西側に江南・関線が通っていますが、これまで各務山の土地利用が進まなかったため、南北に縦断する道路の整備ができませんでした。

このような中、各務山の西端区域で、各務原市土地開発公社が新たな土地利用を図るための開発事業に着手したため、市としては、市内交通の円滑化に向けて、新たな南北縦断道路の整備を行うこととしました。この道路は混雑する江南・関線に並行した各務西町から各務山の前町に至る道路で開発地へのアクセスはもとより、江南・関線のバイパス機能としても期待されます。

また、将来的には各務山の土地利用の進捗に合わせ、更に開発区域内に南北道路を整備してい

くことで、市内交通の円滑化を図ってまいります。

事業実施スケジュールは、昨年度から測量や道路詳細設計を実施し、本年度から令和3年に掛け用地取得を進めます。また工事については、南から北へ向かい令和2年度から工事を進め令和5年度の完成を目指して事業を推進してまいります。

〈市長〉

参考までに先ほどの工業用地としての市内外からの問い合わせですが、今までに60件程の問い合わせをいただいています。

〈東組北自治会長〉

岩坂グリーンロードの方はまだ計画としてないのでしょうか？

〈道路課長〉

おそらく岩坂グリーンロードから南へ向けてという事だと思いますが、現在この部分は土砂の採取の最中です。山の東側の部分となりますが、ここは3つの業者が土砂取りをしております。土砂採取が進んでいる所もあれば進んでいない所もあります。

全体を見渡した場合、岩坂グリーンロードから南へ抜ける道は昔のくみあい飼料のところまでつながる予定です。そうすると岩坂グリーンロードから若干西へ振ることになりますが、そこはまだ砂利採取が終わっておりませんので、その進捗状況を見ながら適切な時期に検討していきたいと思っております。

〈東組北自治会長〉

素人考えかもしれませんが、各務原高校の所からスポーツ広場の横へ抜けたとしても、南につながる道路が無いので結局、江南・関線の所で詰まってしまうのではないかと懸念があるのですが？もうちょっと左右に振るといふか、何か方策はないのでしょうか？

〈道路課長〉

自治会長さんの言われた話は、市内どこの場所においても問題となる南北の道路網のこととなるのですが、今、県の方で新愛岐大橋を着手し始めました。これが完成することにより江南・関線のバイパス的な役割を担う事となります。この新愛岐大橋と岩坂グリーンロードを結んでいくのが、大きな南北道路としてのストリートとなってきます。ただ実現にはまだ何十年もかかることとなると思われます。

最終的には、このような道路網を作っていくということで都市計画決定がなされています。そのうえで今回、今計画しております道路により岐阜鵜沼線とスポーツ広場前の道路が結ばれ、これらが広域幹線道路と接続することになります。この度計画している道路は広域幹線道路を補完していく道路になると思っております。

〈西町西自治会長〉

各務山を整備した時のベースとなる標高はどうなるのでしょうか？近くに飛行場があるため開発するには高さ制限出てくると思うのですが。

〈道路課長〉

各務山には鉄塔が立っております。この鉄塔の基礎の高さがこの地盤の高さの目安になると思っただけであればよいと思います。航空法の関係がありますので当然制限はあります。現在は、鉄塔の基礎よりもまだ上に土が有るのでそれは取ることになると思います。一部西の方は鉄塔の基礎面が出ていますので、その程度の現状のイメージかと思っております。

テーマ③：異世代ホームシェア

〈松が丘自治会連合会長〉

異世代ホームシェアという事ですが、テレビとか新聞とか見ていましたらこのような話題がありましたので提案させていただきました。

まず課題と状況ですが、日本全体として少子高齢化による人口の減少、社会保障費・税金の増大等、多くの課題が山積しています。その課題の一つに「高齢者単身世帯（独居）・高齢者夫婦世帯の増加」による生活の不便や地域社会からの孤立が懸念されています。

八木山地区は市内 1 の高齢化率であり 40%くらいと聞いています。自治会の取り組みや地区社協による「支え合い活動」を通じて高齢者に対する生活支援を行っていますが、それは増加の一步をたどっています。松が丘・つつじが丘で人口 5,000 人位と聞いていますが、その 40%で 2,000 人位の高齢者がみえまして、そのうち 5～6 人に 1 人が独居と聞きましたので 300 人や 400 人がもしかすると 1 人で住まわれているかもしれないという状況です。

あと地区社協の支え合い活動というのがありますが、ゴミ出しや草刈り・修繕といったものをやっているのですが、昨年の実績では 117 世帯に対し 225 件の支え合い活動を行っていたという事ですので、おそらく 17 ある市内の社会福祉協議会の中では突出した実績だと思います。皆様の強い意志や理念がありましてそれに基づいて活動を行っているところです。

その一方で支援する側も高齢化が進んでおり、社協の理事会や自治会・民生委員などの会合でも後継者の育成が喫緊の課題だという事になります。次の人がいないからと頼まれて 10 年もやって見える人や、30 年もやって見える方も見えます。次の方がいないという事は必ず話題になります。後継者になりうる次世代がどういう状況かといいますと、自分たちの世代になると思いますが、ちょうど団塊ジュニアの世代になります。この世代は、日々の仕事や子育て、親の介護に追われ、なかなか地域社会に貢献するための時間的、精神的、費用的な面も含めて、余裕の無い状況にあります。

また、生活習慣や価値観が多様化しており、成熟者社会において全体の合意形成を図るのは極めて困難な局面に差し掛かっています。地区社協の会議の中でも 5 人いたら 5 人の色々な思いがあって違う意見を言われますので、皆が同じ思いになることは非常に難しいと考えています。

学生の方ですが、近年、景気は穏やかな回復基調であるものの実質的な所得は減少していると大和総研のレポートにあるように、学生の両親の金銭面での負担は厳しい状態が続いています。下宿生は、仕送り金額約 7 万円位に対して、住居費約 5 万円にその多くが充てられており、生活費・学費等の費用面で負担となっている、という記述が学生生協の報告の中にありました。こういった事の解決策の一つとして提案できないかという事で、高齢者独居の方と、少人数の世帯に注目して、欧米で広く行われている「異世代ホームシェア事業」を提案させていただきました。

あまり聞き慣れないですが、海外で言いますとスペインは日本と同じように高齢化社会が進んでいるということでこういった取り組みを進めていまして、あとは、2003 年の欧州熱波の猛暑で独居高齢者を中心に熱中症で多くの方が無くなったことを契機に、フランスのパリでも同様の仕組みが開始され活発化しているという事です。

日本では、お笑い芸人と一人暮らしの高齢女性が絆を育む漫画「大家さんと僕」がロングセラーになる中、新しい住み方として学生と高齢者が共に暮らす「異世代ホームシェア」が数年前か

ら 首都圏などで取り組まれています。

高齢者の利点としてですが、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯の方は、1戸建を持たれた後、子供が独立すると、部屋の間取りに余裕ができてくるのでその部屋の利用が可能となります。

部屋数は1軒で2.77部屋、おおむね3部屋位余裕があると試算もあります。

独居の方は不安をお持ちで住まわれていますので、その不安を減らすことが出来る。何より世代を超えた交流が高齢者の生活に潤いや明るさをもたらしてくれるのではないかと考えています。

学生側の利点としては、経済面で非常に苦しい状況にありますので下宿よりも経済的で生活の負担を減らすことが出来る。更に同年代からは学ぶことのできない先輩の知識や経験を得ることができるのではないかと考えます。

こういったことに対する本市の可能性として、住宅事情・人口動態は首都圏や他地域と異なるためニーズ等の調査をしてみないと分かりませんが、貸し手となる高齢者は増加の方向にある中で持ち家が多いと推察されます。実際、八木山地区では持ち家の方が多いのでそういった部屋が空いているのではないかと考えられます。

借り手となる学生は、市内に中部学院大学・東海学院大学、近郊では岐阜大学、岐阜女子大学等が立地しており、潜在的な可能性はあるのではないかとという事で、中部学院大学のホームページを見ましたら、2,600人の学生がいて、うち通信が600人、通学生が1,000人という事で4割が下宿生という事だったので、800人位は下宿されているかもしれないですし、福祉系の学科もありますので、もしかするとそういったものとマッチングが出来るかもしれないと思います。

公共団体の役割としましては、「異世代ホームシェア」に必要な住居改修費の経費に対し補助金の拠出です。(京都の事例では補助率1/2上限90万円となっています。)

次の学生の役割を実施した場合に、労務に対し住居生活費の一部を負担する等があるとします。学生の役割としては、担い手のいない自治会の活動としての市民清掃や盆踊り大会の設置運営、まちづくり協議会の活動としての地元のお祭り・市民体育大会等への参加、地元消防団の活動を担っていただき、若者の若い活力と老年者の成熟した活力の共同で地域貢献と地域交流等をより円滑に図っていけるのではないかと考えて今回の提案とさせていただきました。

取り組みの事例を紹介します。

事例①として首都圏ですがNPOがマッチングをしている「異世代ホームシェア事業」です。76歳の老人と早稲田大学の1年生が部屋は別々に持っているが、玄関や食事をする部屋を共有して同じ部屋で話をして過ごすといった事を行っている事例です。

事例②は福井県の「異世代ホームシェア事業「たすかりす」」です。福井県社会福祉協議会の60周年記念事業で福井大学住環境計画研究室のアイデアを採用した共同事業です。こちらのホームページを見ますと「たすかりす」の取り組みの実績が載っておりますが、なかなか面白いことが載っております。老人の方々は良かったこととして「気持ち的には1人でもいてくれた方が安心します。」「しゃべらなくてもいてくれるだけで全然違います、孫だと思っています。」等、他人ですけどそんな感情が湧いて、おもしろいなと思っています。こちらの事業費は大学からの活動経費を充填しているという事です。

事例③は「次世代下宿「京都ソリデール」」です。29年度から行っているそうで、京都府の取り組みで、区の事業でマッチングする事業者をプロポーザルで選定したという事例だそうです。

他地区では、こういったことも始まっているそうです。八木山地区は高齢者率が上がっている
ので、出来たら面白いなと思って提案させていただきました。

〈市長〉

特色あるご提言ありがとうございます。

ご心配いただきました高齢化率ですが、データ上から見ると一番高いのが八木山小校区、次が
緑苑、3番目が尾崎となっております、やはり50年ないし60年前に開発された団地群のお
父さんお母さんが歳を重ねられて高齢化が進んでいるというのではないかと思います。

一番低いところは22%位ですが、八木山小校区については現在41.4%と先ほど数字を出して
話していただきましたが、まさにそういう状況にあると思っています。5人に2人は高齢者とい
う状況にありますので、今ご提言をいただきました異世代ホームシェアというものについては関
心をもって、今後もう少し時間をいただきながら考えていきたいと思っています。

やはり東京一極集中が、全く是正が進んでいない状況で、また、こちらから流出していく人が
防げない状況の中ではありますが、本市はありがたいことに今のところ微減という状況にありま
すので今の人口規模を当面維持していくのか、あるいは市外の方にも本市と一緒に住んでいただ
けるような施策を打って行く、これは子ども・子育て・教育であったり高齢者の福祉であったり、
様々な施策を打って行くことによって、人口の流出を防ぐ、あるいは流入を促進する、そうい
ったことが出てくるかと思っています。先ほどの異世代ホームシェアにつきましては、メリットと
そしてもう一つやはり課題も有ると思います。

生活習慣であったり、価値観であったり、そういったことと、学生さん、最近の若い人は、一
人の時間を大切にする、一人の部屋を大切にしている傾向が強くなってきている。そういう世代で
すので、個人個人の方の中で、高齢者の方と一緒にになって色々なことを学びたいという方も見え
になったり、一人の時間をしっかりと確保したいという方も見えになります。

各務原市内で言いますと尾崎団地があります。東海学院大学がすぐ近くにありますが、意外と
家賃が安く、今までの入所資格がちょっと緩和されましたが、それでも入居率が上がらないとい
う状況も有ります。

事例として出していただきました福井であったり京都であったり、そういった所を研究させて
いただいて、あとNPOとかそういったことを手掛けている団体も無いという事ですので、いろ
いろな調査をさせていただきながら、いずれはこうした時代も来るのでは、という視野を持ちな
がら私どもも考えさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

〈丸子西町自治会長〉

突然ではありますが、1つお願いがあります。

これは市長さんの方からちょっと職員に声をかけていただければと思うのですが、今、自治会
長などを選ぶのは非常に難しく、高齢化でなかなか成り手が無い状況です。せっかく色々な思い
をもって市の職員になられた方々に、定年した後、自治会の中で自分の培ったものを生かしてや
ってもらいたい。今、見守り隊でも高齢化しており、どちらが「見守り隊」なのかかわらないよ
うな状況です。市の職員や警察のOB等、交通ルールも熟知し防犯等も詳しい方々に、積極的に
地元の戦力として活躍していただきたいと思っております。

また、自治会長は任期1年ですが、民生委員3年とか、青少年育成2年とか、体育指導員2
年とか、こういった方々も苦勞が多いと思われれます。公務でやっけて色々な知恵のある方々に

協力をお願いしたいと思います。

〈市長〉

定年退職してから地域のために何かやりなさい、という事はしっかり伝達いたします。若い職員につきましても、市内消防団に加入する率は徐々に増加傾向にあります。

私が採用面接のときに、地元には消防団があるけれども、こういった自治会活動も大事ですよという話から、「誘われたら入りますか？誘われなくても自主的に入りますか？」という質問をさせていただいています。そういったことが生きてきたのか、ここ数年は毎年必ず消防団に加入しているという状況があります。

今のお話は定年後のお話になりますけれども、やはり自治会役員、地区社協、民児協・体協等々そういった所でも自分の経験と知識を生かして、更なる飛躍を遂げていただきたい、そういったお話をしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

○行政の説明

・ひとの活躍・まちの活気

しあわせ実感かかみがはら

○連合会長まとめのことば

○市長まとめのことば